

論文

幼少期における文字習得とその環境 —幼年童話と幼稚園での活動から—

藤本 陽子*1

キーワード：幼児、幼年童話、読み聞かせ、文字習得環境

1. はじめに

平成20年度における日本全国の3歳児から5歳児の総人口は、およそ3,257,000人¹⁾であり、そのうち、保育所在者数はおよそ1,309,000人(平成20年10月1日現在 3歳児から5歳児総計)、幼稚園在園児数はおよそ1,674,000人(平成20年5月1日現在 3歳児から5歳児総計)となっている²⁾。

本稿では、未就学児の中のおよそ半数以上を占める幼児が通う幼稚園での活動の中で、平成12年の改訂で盛り込まれ、今回の改訂でほとんど変更なく、全面的な実施が昨年度から始まっている新学習指導要領第2章「ねらいおよび内容」以下「環境」にある「1ねらい(3)身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする」の「文字などに対する感覚を豊かにする」という部分、また、「言葉」にある「2内容(10)日常生活の中で、文字などを伝える楽しさを味わう。」³⁾が、実際の現場でどのように反映されているのか、また幼少期にどのような言語活動が幼稚園で行われているのかを、幼少期における文字環境・および文字習得環境と共に検証する。

ちなみに、平成2年4月1日に施行された学習指導要領には、「文字を伝える」という項がない。留意事項に「(2)文字に関する系統的な指導は小学校から行われるものであるため、幼稚園においては直接取り上げて指導するのではなく個々の幼児の文字に対する興味や関心、感覚が無理なく養われるようにすること。」⁴⁾とあり、幼稚園における文字教育、文字学習の必要性

は謳われていなかったが、前回の改訂で積極的な文字教育が盛り込まれた。従って、前回の改訂から10年を経た新学習指導要領施行ではあるが、後述する幼稚園の園長の言によれば現場は「学習指導要領改訂による幼稚園の指導内容変更は特になかった。」とのことである。

2. 幼児をとりまく文字環境

幼児をとりまく文字環境として、家庭の内外にある文字の書かれたもの、新聞、本、チラシ、雑誌、看板、ポスター、車内広告、葉書、テレビ番組等幼児を対象としないものと、幼児を対象としたテレビ番組、ビデオ、本(絵本)が挙げられるであろう。

カレントアウェアネス・ポータル「子どもの情報環境の現況」によれば、幼児のテレビの視聴時間(幼児を対象とした番組視聴)は、1日平均2時間、またビデオについては約30分と言う⁵⁾。このビデオ視聴には、ベネッセコーポレーションのような教育産業から毎月送られてくる教育ビデオも含まれていると考えられ、文字を意図的に教育するビデオで幼児は文字を習得、あるいは、習得に至らないまでも上記のような普通の生活にある文字に曝されていると考えられる。

しかし、本稿では、家庭での文字習得環境ではなく、幼稚園という保育施設について限定的に取り上げるので、ビデオ視聴ではなく、幼児が意識的に一番目や耳にしているであろう文字・言葉の集合体である児童文学作品について最初に検証する。この児童文学作品については「幼年童話」という言葉をもって4、5歳か

*1 山口福祉文化大学 ライフデザイン学部

ら9歳前後の子どもを読書対象としていることを表す⁶⁾ので、以後、幼年童話と書き表すこととする。

幼年童話については、文字がまだ読めない子どもにとって「読み聞かせ」活動が、大きな位置を占めている⁷⁾。この「読み聞かせ」という活動は、家庭においても幼稚園に入る前から、また幼稚園でも行われているものであるが、幼児が接する幼年童話にはどのような文字が使用されているのかについて調査した。

2.1 幼年童話で使用されている文字についての調査の方法

取り上げた本は50冊である。本そのものに対象年齢の表記があるもので、幼稚園の時期の子どもが対象となるものを選んだ。しかし、対象年齢の表記が本にあるものは限られており、福音館書店のペーパーバックのように表記のないものについては図書館の分類や司書の助けを得たものもある。また、一口に対象年齢といっても、自分で読む場合と読み聞かせの場合では、同じ本でも対象年齢が異なってくる。そこで、幼児が自分で読むであろう本（絵だけを楽しむかもしれないが、文字が読めるようになれば自分で文字を読む本）と、一文が長く複雑、また文章も長く話も複雑だが読み聞かせで園児の年齢が対象となる本を選んだ。それは、読み聞かせの本ではあるが、絵を見ながら話を聞いている時に、絵と共に書かれている文字—視覚的な言葉—に子どもは関心を持つと考えられるからだ。

また、文字の使用が作者、あるいは訳者によって意図されていること、また出版社による基準があると考えられるので、作者、訳者が重複しないように選択した。さらに、物語ではなく、説明的文章のものとして、福音館書店の「こどものかがくシリーズ」を10冊入れた。結果的に物語40冊に対して、説明的文章10冊で、物語のうち16冊の原作が海外のものとなった。以上述べたように、本の抽出についてはランダムを目指したがかなり意図的なものとなっている。更に、上記のような意図的な本の選択、出版社の出版量、また幼年童

話でも得意分野（洋書や対象年齢）があるようで、福音館書店のものが一番多くなっている。書名、作者、訳者および出版社その他調査結果は補遺1にある通りである。

以下に、幼年童話の中に使用されている文字についてそれぞれ述べる。

2.2 ひらがな

幼年童話においては、文を表記するのに使用される基本的な文字である。

50冊のうち、本文を構成する文字としてひらがなを使用していないもの（絵本）は『おふろやさん』と『雨、あめ』の2冊であったが、『おふろやさん』は絵の中に日常生活を表す文字が書かれている。『雨、あめ』はタイトルにのみ文字が使われている。

記述方法は、ひらがなが多いため分かち書きであるが、単語の羅列だけの本は別として、文として成り立つものになると完全な分かち書きではなく、不完全分かち書きという手法が採られている。

2.3 カタカナ

幼年童話において、ひらがな表記だけであるかと言えば、そうではない。50冊のうち37冊に様々な形でカタカナが使用されている。

その内訳を見てみると、固有名詞、擬態語、擬声語、普通名詞（外来語）である。カタカナで表記された固有名詞の数が一番多かったのは『みずくさとみずべむら』で、登場人物33匹の名前である。

『ゆうちゃんのみきさーしゃ』、『とらっく とらっく とらっく』、『ちいさいおうち』のように、外来語もひらがなで書かれているものは3冊のみであった。いずれも1960年代に発行されている。但し、『ゆうちゃんのみきさーしゃ』はタイトルにあるように外来語にひらがなが使用されているが、絵の部分の『ポリポリビットビスケット』という表記はカタカナである。

原作が外国のものについては、ルビ（ひらがな）は

『バーバパパ』を除き全く使われていなかったが、日本オリジナルの幼年童話には、アンパンマンを始め5冊だけにつけられていた。これは明らかに、ひらがなは読めるがカタカナはまだ読めない子どもが自分で読むことを想定してのものである。

カタカナ使用、またカタカナにルビを振るか振らないかについて、ルビを振っていない福音館書店に聞くと、本によってカタカナを使用するかしないかは作者と決めるが、動物名などカタカナの方が明らかに分かり易いものはカタカナで表記するようにしている。また、カタカナは基本的に子どもが読めるものとしルビを振らない事にしているとのことであった。

カタカナの使用については、教育的配慮というよりは、作者と出版社（編集者）によるものが大きいことが分かる。

2.4 アラビア数字・記号

今回の調査の中では、アラビア数字として一番大きな数字は1000であった。数字は様々な単位を伴って登場しているが、アラビア数字にひらがなのルビがふってあったのは1冊だけだった。数字は、ひらがなと同じぐらいに、援助なしに読めるはずの文字という扱いなのだろう。

また、記号は絵の中に一つあった%だけである。%の意味自体を子どもが習うのはまだ先のことであるが、デパートのセールの割引率が25%であると絵の部分に表記されていた。

2.5 漢字

資料1を見ると分かる通り、絵と本文、あるいはいずれかだけに漢字が使用されている本は、合わせて15冊になった。絵に漢字が書かれているものが7冊で、そのうち先述の『おふろやさん』は本の始めから終わりまで本文がなく、実生活をそのまま描いた絵だけで構成されているので、漢字の使用に制限はなく、情景の中に漢字が盛り込まれている。また、『ぞうとかぼち

や』については、見開きでゾウの絵の口から肛門までを説明するようにルビ付き漢字が書かれているが、本を読む流れで、読まずにはいられない部分と判断し、本文中の漢字とみなしている。(但し後に述べるように、出版社では本文としてではなく絵の部分として認識している。)

一方、絵だけではなく、本文にも漢字が使用されているものは1冊であった。本文のみに漢字が使用されているものが50冊中10冊あり、そのうちルビがついているものが7冊であった。ルビなしで漢字を使用している本5冊のうち2冊は大人への注として本の隅に小さい字で表記されている中に使用されており、子どもが読むことはないと思われる。また、他の漢字にはルビがあるのに特定の漢字だけルビを振っていないものが2冊、全くルビを使用していない本が1冊あったが、これはタイトルにのみ文字が使用されていること、『雨、あめ』と漢字表記のあとにひらがな表記がされていることから、ルビが必要ないと判断された可能性がある。ちなみにこの本の文字使用はタイトルのみで、内容は全て雨が降る様々な風景が描かれている文字の全くない絵本であった。

また、使用されている漢字（ルビあり、ルビなし）を見ると、その読み方は様々であるが漢数字が最も多く5冊、その他はルビありで、日と木が3冊、口が2冊であった。いずれも名詞のみである。『ぞうとかぼちや』は、非常に専門的に消化の経緯を説明するもので消化に関わる言葉が漢字（ルビ付き）で使用されているが、これは特殊な例であろう。そこで、福音館書店に、会社としての文字使用についての基準について尋ねた。その回答が次のようなものである。

小学校上級以上が対象となっている本の場合、4年生までに習う漢字についてはルビを振らず、5年生以上で習うものに振るという基準がある。未就学児が対象の場合は漢字をなるべく使わないようにするが、同じ言葉をひらがなにするか漢字にするかは作家に任せる。和語は漢字で書かない方が合う、同音異義語の多

い物は漢字で書いた方が良いが、日常的に普及している漢語についてはひらがなで書いても理解しにくいということはない（十分をじゅうぶんと表記する）ということが考えられるとのことであった。また、『ぞうとかぼちゃ』については当時の編集者がいないため、正確なことは分からないが、消化器官の書かれている漢字は絵の部分でもあり、全てをひらがなにすると身体の部位として分かりにくいことから漢字表記にしたものと思われるということであった。

その他の本で使用されている漢字は画数も少なく言葉も子どもになじみのあるものである。その中の『ひとつめのくに』を出版した童心社にも、漢字の使用についての基準が出版社にあるのか尋ねたところ、次のような回答を得た。

幼年童話における文字使用に関する基準は特に設けていない。『ひとつめのくに』の漢字使用については、古い本で当時の担当者がいないため確認は取れないが、「ひとつめ」との比較で「二」あるいは「三」といった漢字の使用があったのかもしれない。但し、その他の漢字の使用については不明である。社としては基本的にひらがなを使用し、漢字にはルビをふる。絵本でも小学生が対象というようなグレードの高いものであれば漢字は使用するし、また幼児対象の絵本でも幼児自身だけが読むと前提しているわけではなく、親、先生などの読み聞かせをする人が読むことを考えて、読み易いようにしているところはある、とのことだった。

たしかにこれらの漢字は、小学校1年生の漢字の導入期に登場する漢字であり⁸⁾、先述の通り、就学前の子どもにとっても認識に困難を伴う漢字ではなく、漢字の導入の一助になっているとも考えられる。

2.6 まとめ

幼年童話とえば、ひらがな表記に分かち書き（あるいは不完全分かち書き）という印象が強かったが、実際には多少漢字も使用されている。漢字の使用にはもちろん制限があるにしても、作品とのバランスを考

え文字が選ばれることによって、文字の文学的、あるいは説明効果をねらった使用が、幼年童話でも行われていることが分かる。これは文字の使用が教育的に管理された教科書と大きく異なっている点である。幼児は、このような幼年童話によって様々な文字に曝されていると言えよう。余談ではあるが、これは幼児に限らず更に年齢の高い児童、生徒たちについても本を読めば同様のことが起こると考えられる。

以上、本という媒体による文字環境について述べてきたが、次に教育現場である幼稚園での状況について述べる。

3. 幼稚園での文字習得状況と文字使用環境

保育園に子どもを通わせている母親が、保育園ではひらがなを教えないので、毎月送られてくる教育ビデオで子どもにひらがなをおぼえさせなければいけないと言うのを聞く。

新学習指導要領にも、文字を使った活動をするものについては明文化されているが、文字教育そのものについては明記されていない。実際に文字の学習が始まるのは小学校1年生からであるが、文部科学省管轄の幼稚園ではどうなのであろうか。文字を教えられることなしに子どもたちが書くことがあり得るのだろうか。

また横山は、幼稚園での手紙を書く活動について調査研究をしているが⁹⁾、「文字などを伝える楽しさ」の活動として、手紙を書く以外にどのような活動の可能性があるのであろうか。実際に幼稚園を訪問し、1日にどのような文字に関わる活動をしているのか観察した。

3.1 観察対象、時期および方法

千葉県にある私立ミッション系幼稚園。3年保育で、年少、年中、年長の3学年が1クラスずつあり、教員は年少を2名、年中を1名、年長を1名が担当している。当日欠席していた園児もおり、各クラスおよそ男女合わせて20名であった。

園長に、事前に1日参観のお願いをするため趣旨は

伝えたが、この観察のための特別な活動を依頼せず、ありのままの年少、年中、年長の6月の1日の活動(課外活動を除く)を観察した。この日は父の日前であったので、父の日参観の準備のための活動が行われていた。

観察の記録方法は、活動ごとの開始時間、それに付随する教員と幼児の会話、行動を記録するという方法を使った。

3.2 観察

以下にこの日一日のおおよその流れを示す。

表-1 幼稚園での1日の流れ

	年少	年中	年長
8:30	登園		
9:35	朝の集まり (全クラス合同)		
10:00	ゲーム (全クラス合同)		
10:20	父の日参観の準備 水槽の観察	工作	父の日参観の準備 工作
11:40	お弁当 (クラスごと)		
12:25	お弁当と読み聞かせ (着替え)	本読み(自由) (着替え)	着替え、ゴミ拾い
12:40	歌・外遊び	外遊び	バトン
1:05	外遊び (全クラス合同)		
1:45	帰りの集まり (クラスごと)		
		紙芝居	紙芝居
2:00	帰りの集まり (全体) 課外活動参加の子どものみ別の場所で課外活動		
2:10	帰宅 (課外活動参加の子どもは課外活動)		

幼稚園は、小学校以上と違い、校時が定められているわけではなくクラスによって次の活動へ移る時間が異なっているため、上記の時刻は目安である。

午前中の「父の日参観の準備」というのは、次の土曜日に予定されている行事の準備であり、年少と年長のクラスはこの日に父親にプレゼントするものを作成

していた。

この中の文字を媒体とする活動として、年少は読み聞かせ、年中は工作の部分に若干とお弁当の後の本読みと帰りの紙芝居、そして年長は父の日参観の準備と紙芝居に着目した。次に、年少からその内容を見ていくことにする。

3.3 年少組の文字を使用した活動

年少の読み聞かせは、お弁当を早く食べ終わった子ども達のみ、部屋の一部に御座をしいた上で行われるもので、クラス全体の活動として行われているものではなかった。2人のうちの1人の教員が御座の上座る。もう一人はまだお弁当を食べている子ども達や、読み聞かせに参加しない子ども達を見ているという状況で行われた。

子ども達が、読んでほしい本を本棚から取って教員に持ってくる。この日教員が取り上げたのは『せかいいちのおべんとう』で、その他の子どもには次回読むことを約束して、絵を見せながら読み始めた。この話は、仲の良い動物たちがお弁当を持って出かけるのだが、そのうちのクマがお弁当を落としてしまい、他の動物達が自分たちのお弁当を少しずつ分けるという話で、様々な動物が登場するものである。そこで、教員は子どもに動物の名前を尋ねたり、場合によっては確認のために前のページに戻ったり、話の続きを予測させたりしながら読み進めた。そして、最後の色々な動物が分けてくれたお弁当の絵を見ながら、どのお弁当を誰からもらったものかを子ども達に考えさせた。2冊目は、『きかんしゃトーマス』の続きということだった。毎日読まれているクラスで人気の本のような。先ほどの本のときより、子ども達は身を乗り出して本を食い入るように見つめていた。この本についても教員が登場する機関車の名前を聞くという方法で、所々質問を差し挟みながら読み進めていった。

3.4 年中組の文字を使用した活動

年中組の工作は「わんこレース」作成であった。「わんこレース」というのは、紙でできたレースをさせる犬の絵3つと、レースのコースを組み立てるものである。まず、犬の絵を子ども達は色鉛筆で思い思いの色に塗り、切り取り、のりで貼って立体化する。そして、コースの部分も切り取り、山おり、谷おりの指示に従って折る。子ども達はスタートの部分に犬のコマを3つ置きトントン相撲の要領で振動を与えて、どの犬が先にゴールに着くかを競わせる。

本読みは、お弁当の後、外遊びのためあるいは課外活動の運動教室のための体操服に着替えが終わった子どもたちが、部屋の一部にしいた薄い畳の上で自分が読みたい本を部屋の本棚から持ってきて読むもので、クラス全体の活動として行われているものではなかった。2名の男子が1冊の本を一緒に見ている様子が見られた。

紙芝居は、帰り支度ができ、全員が自分の席に着いたところで、教員が前に立って行った。

3.5 年長組の文字を使用した活動

午前中に行われた父親参観の準備は、父親参観の日にプレゼントをする写真立てとノートの作成である。写真立てはすでに出来上がっていたもので、裏に子ども達からお父さんへのメッセージが貼ってある。教員はできあがった写真立てを子ども達に見せ、写真を挿入する口がどちらにあるのかの説明をし、その後もう一つのプレゼントであるノート作成の作業に入った。

まず、教員が以前子ども達が色画用紙に描いたものの片面に防水加工を施した物を見せる。子ども達に、片面は防水加工してあるから、お父さん達にその面は濡らしてしまうようなことがあっても大丈夫だけれど、その裏側は濡らしてしまうと駄目になってしまうと伝えるように話す。次に、その画用紙を折って、この画用紙がカバーになることを話す。そしてA4サイズの自由帳を子ども達に1冊ずつ配る。自由帳は青とピンクがあり、子ども達を選べるようになっている。ノー

トを配った後、どちらを表にするか、教員は一人一人にノートを開いて教えていく。そして次に、最初のページの中央に鉛筆で線を引き、上段にお父さんへのメッセージを書くように指示する。

子ども達は、教員の指示通り、ページ中央に鉛筆で線を引き、上段に「パパ、いつもありがとう」と書き始める。様子を見てみると、友達の見よう見まねでカタカナで「パパ」と書いている子どももいたが、すらすらと書いていた。このノートは、子どもと父親とのコミュニケーションツール、交換日記になるのだという。すなわち、上段に子どもからのメッセージ、そして下段に父親からのメッセージが書かれることになるのである。

年長組の紙芝居も年中同様、帰り支度ができ全員が自分の席に着いたところで、教員が前に立って行った。紙芝居の題名は『ふしぎなはこ』。教員はまず子ども達に題名を見せて、「読んでください」と言う。子ども達はそれに応えて「ふしぎなはこ」と声に出して読んだ。そこで教員は「では、さかさまに読んでください。」と言う。子ども達はすらすらと読めずバラバラに答える。「は」をそのまま[hɑ]と読んでいいのか、助詞としての[wa]と読んでいいのか迷っているようであった。

特に教員がこれと読み方を教える事はなく、本文に入る。この『ふしぎなはこ』は箱に手を入れると犯人の手だけ黒くなるというものである。犯人探しで色々な動物が疑われ、全員が箱の中に手を入れて出してみたら全員の手が黒くなったが、ふしぎなはこは、ただ底に墨がついていることが分かり、犯人も盗まれた事を言いだした本人だと分かる話である。この教員は、途中で質問を差し挟まずに、最後まで読んでいった。教員の「おしまい」という言葉に子ども達は拍手をする。そこで教員は最後の動物達の手場面を見せ、どの手がどの動物の手か子ども達に質問し、子ども達はそれぞれについて答えた。

3.6 活動の観察結果

次に各クラスの活動の観察結果について述べる。

3.6.1 年少組

年少組の読み聞かせは、行動の速度の大きく違う子ども達の時間調整という役割を持っているが、御座をしなければ子ども達がめいめい読んで欲しい本を持って集まることから、消極的な活動ではなく、子ども達にとって積極的な活動であると言える。但し、子ども達が、教員の読んでいる文字に興味を示している姿は見られず、教員の質問には自分たちの知識と絵からの情報で答えていたと思われる。

3.6.2 年中組

年中組の工作では、直接的な文字を媒体とする活動は明確にはないが、スタートあるいはゴールという文字が分からなければ遊べない。遊んでいる子ども達の様子を見ると、スタートとゴールを取り違えて遊んではいなかったことから、文字そのものを「スタート」「ゴール」として認識している可能性もあるが、スタート部分にはバネとなるコースの端をたたんだ部分があるので、それで子ども達はスタートを認識していたかもしれない。

しかし、偶然ではあるが、次のような光景が観察された。それはこの工作が終わった子ども達の活動の中で見られたことである。工作が終わった子ども達は折り紙や粘りで遊ぶ。折り紙は市販されている折り紙ではなく、広告を正方形に切ったものであったが、ある男子がその広告にあった「それいけアンパンマン」という文字を見つけて読み、友達に「ここに『それいけアンパンマン』と書いてあるよ。」と教えたものである。このことから、自分が好きで良く目にするひらがなとカタカナだけが読めるのか、あるいは全てのひらがなとカタカナが読めるのかは分からないが、年中の子ども達の中にも、ひらがなとカタカナが読める子どもがいることが分かる。

今回の年中組の紙芝居については、文字習得よりは

学校教育法(抄)第三章第二十三条 四「日常の会話や、絵本、童話等に親しむことを通じて、言葉の使い方方を正しく導くとともに、相手の話を理解しようとする態度を養うこと」に該当していたと考えられるが、取り上げるもの、取り上げ方によってはまた文字習得の側面もあるものとする。

3.6.3 年長組

年長組は、父の日参観のプレゼント作りでメッセージを書いていることから、すでに文字の習得をしていることが分かる。しかも、子どもによってはカタカナも習得していることが分かる。実際、同じ年長組の女子が別の女子のことを「〇〇ちゃんは、カタカナも漢字も書けるんだよ。」と言っており、漢字もすでにいくつか書ける子どもがいることが分かる。

また、子ども達は毎日親と幼稚園の連絡帳を運び、目にしている。そういう意味では、父親と自分の連絡帳は父親の協力が必要ではあるが、身近で継続的に取り組みやすい活動につながると言えよう。

また、紙芝居を読む時間でも、題名を子ども達に読ませる場面があり、このことから教員も、子ども達が字が読める事を意識していること、また読めない子どもたちに文字への興味を持たせる意識づけをしていることが分かる。さらに、子ども達に題名を反対から読ませたときの子ども達の戸惑いから、「は」が助詞の場合は[wa]と読むことまで理解しているものと思われる。

3.7. 教室

次に、物理的な環境、すなわち教室について述べる。

(図は資料参照)

年少の教室は、前方に黒板があり、その左側に幼稚園のミッションが書いてあるものが貼ってある。これは子ども達が覚えて、朝の集まりに言うものである。黒板の右側には、各月の誕生日の子ども達の名前がひらがなで書いてある。本棚は黒板に向かって右側のピアノより教室後部にある。この本棚から、読み聞かせ

の際、子ども達が本を選んで持ってきた。

年中の教室も年少と基本的に同じ造りになっているが、ピアノの代わりにオルガンが設置されている。ミッションはもちろんこの教室にも貼ってあるが、黒板に「てんのおとうさん」「おとうさん」とお祈りと父の日に合わせたような言葉が書いてある模造紙が貼ってあり、黒板横に小さなひらがなの50音図が貼ってあるのが、年少組との大きな違いである。

年長の教室の特筆すべき点は、黒板をはじめとした前方の壁である。黒板には小学校で見るサイズのひらがなの50音図が大きく貼ってあるほか、おいのりが書いてある模造紙などが貼ってあった。黒板の外にも、形は違うがお誕生日おめでどうと書いた、他のクラスにもあった各月に誕生日を迎える子どもの名前を書いたもの、ミッションなどが貼ってあり、文字があふれているという印象を受けた。

この物理的な環境からも、年中からひらがなの意識づけが始まっており、年長に至っては本格的にひらがなを学習する環境があることが分かる。

3.8. まとめ

以上から、幼稚園の活動においても、環境面においても、学習指導要領が求めている文字に対する意識づけ、また教育が行われていることが分かった。環境面については、世の中では外国人でも分かり易いように記号化が進んでいるが、幼稚園では教室外でもトイレに「トイレ」と文字で示されていたり、文字が使用されていた。

園長に実際の園児の文字の習得について尋ねてみると、年少ですでに自分の名前の文字が認識できる子どもがいて、さらに他の字も読める子どももおり、そのような子どもは教員の配布物を手伝ったりすることがあり、文字の習得の時期は子どもによって大分違うということである。それは、子ども自身が文字に興味を持つ時期が異なり、また家庭で文字を教える時期も異なるからなのだという。かなり文字教育に熱心な家庭

だと2歳ごろから文字を教えており、一方、幼稚園としては年長になって2学期にワークでひらがなの学習をするが、それでもレベルに開きがあるとのことだ。

しかし、今回訪れたのはまだ1学期で、幼稚園としてはまだひらがなを教えていない時期であったが、子ども達はすでに文字を書いていた。つまり、幼稚園でも書き順などを教える前に文字を使った活動を行っており、また子ども達はその活動を遂行できる力をすでに持っていることになる。それは家庭での学習の成果でもあるかもしれないし、個人の文字認識と見よう見まねの力でもあるかもしれない。

漢字についても見よう見まねで書けるようになる子どもがいるが、きちんと教わるのではなく見よう見まねのため、書き順の知識がないまま習得してしまい、漢字を下から書いたりすることがあるという。この誤った書き順を直すのはなかなか大変で、きちんと始めから教える機会が必要であるが、幼稚園では漢字は教えていないとのことである。これはもちろん、幼稚園に漢字学習の管理まで求められていないので当然のことであろう。

4. おわりに

幼児期の子どもの成長度合いは、それ以降に比べると同じ学年でも非常に大きく異なる。そのため、「感覚を豊かに」し「文字を伝える」と学習指導要領で謳っても、その後の課程と異なり、文字数、種類についての具体的な学習到達目標については明確にせず、来るべき小学校からの学習に備える時期であると文部科学省は定めているのだと考える。また「幼稚園は教育機関」であるが、小学校からを義務教育とし、同じ幼児期を保育園といった別の環境で過ごしたり、あるいはそのような保育施設に通わずに自宅で過ごす幼児がいたりする中で、要領としては幼稚園だけ、いわゆる知識的学習を先んじさせられない状況もあろう。

しかし、実際に今回観察した幼稚園でも集団で行動すること、整列の仕方、「はい」と大きな声で返事をす

るなど、文字習得以外にも小学校に先行して行われている教育・訓練は多い。さらに地域、宗教、身体能力などを伸ばすなどの特徴的な幼稚園など、幼稚園の教育や環境は小学校以上により多様であると推測される。従って子ども達の文字習得状況も異なったものとなる。このように文字を習得しており、集団行動などを身につけた子ども達と、小学校でそれを初めて学習、身につける子ども達が一緒に学習し始める小学校一年生のクラスを考えると、それぞれの子どもの「できる感」「できない感」や、教師のクラス運営の難しさが推測される。このことについては、実際に成立実践は難しいとされ、その善し悪しについてもまた議論が必

要な幼保一体化が進められると解消されるのだろうか。

本稿ではあえて、文字習得環境を限定し、その結果として、子どもの文字習得は教育機関のみで行われるものではないことが分かった。親によっては、小学校で文字を習うのだから幼稚園の段階であえて教育しなくても問題はないだろうという考えもあるようだが、特にこの時期に大きい子どもの文字への関心、発達の度合いの違いを考慮すると、教育機関という横並びの時期に文字の習得にまかせるばかりではなく、家庭での観察と必要に応じての文字教育はやはり必要なのではないかと考える。そして、それは以後の初等教育においても考慮されるべきことなのではないかと考える。

[引用文献]

1) 総務省統計局・政策統括官(統計基準担当)・統計研修所ホームページ;日本の統計 2010, 2-4 「年齢各歳別人口」
<http://www.stat.go.jp/data/nihon/backdata/02.htm>
(2011年6月6日)

2) 統計局ホームページ;日本の統計, 第22章教育 22-5 「幼稚園・保育所の在園者数と在所児数」
<http://www.stat.go.jp/data/nihon/22.htm>
(2011年5月18日)

3) 文部科学省;幼稚園教育要領, 2008, p.6,8

4) 文部科学省ホームページ;幼稚園教育要領
http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/890302.htm

5) 岡本一世;子どもの情報行動に関する調査研究 2.子どもの情報環境の現況,図書館調査研究リポート No.10, 国立国会図書館, 2008, p15

6) 村川京子;幼年童話, 関口安義;アプローチ児童文学, 翰林書房, 2008, p.36

7) 横山真貴子;絵本の読み聞かせと手紙を書く活動の研究—保育における幼児の文字を媒介とした活動—, 風間書房, 2004, p.14

8) 山本由紀子;小学校の漢字学習から見えてく

るもの, 堀誠編著;漢字・漢語・漢文の教育と指導, 学文社, 2011, pp.44-45

9) 横山真貴子;絵本の読み聞かせと手紙を書く活動の研究—保育における幼児の文字を媒介とした活動—, 風間書房, 2004

[参考文献]

1) 統計局ホームページ;日本の統計, 第22章教育 22-5 「幼稚園・保育所の在園者数と在所児数」
<http://www.stat.go.jp/data/nihon/22.htm>
(2011年5月18日)

2) 総務省統計局・政策統括官(統計基準担当)・統計研修所ホームページ;日本の統計 2010, 2-4 「年齢各歳別人口」
<http://www.stat.go.jp/data/nihon/backdata/02.htm>
(2011年6月6日)

3) 文部科学省;幼稚園教育要領, 2008

4) 文部科学省ホームページ;幼稚園教育要領, 1989
http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/890302.htm

5) 岡本一世;子どもの情報行動に関する調査研究 2.子どもの情報環境の現況, 図書館調査研究リポート No.10, 国立国会図書館, 2008

-
- 6) 村川京子；幼年童話，関口安義；アプローチ児童文学，翰林書房，2008
 - 7) 横山真貴子；絵本の読み聞かせと手紙を書く活動の研究—保育における幼児の文字を媒介とした活動—，風間書房，2004
 - 8) 堀誠編著；漢字・漢語・漢文の教育と指導，学文社，2011

The Environment of Letter Acquisition for Preschool Children -Research of Children's Books and Activities at a Kindergarten-

Yoko FUJIMOTO

In accordance with a new course of study for kindergarten students from the ministry of education, culture, sports, science and technology, two of the aims for education at a kindergarten are "(3) To enrich children's understanding of the nature of things, the concepts of quantities, written words, etc. through observing, thinking about and dealing with surroundings things and experiences", and (10) Experiencing the enjoyment of conveying thoughts and feelings in writing in everyday life." This thesis focuses on the "written words" of the environment and "conveying thoughts and feelings in everyday life," especially for the children who go to kindergarten because education at the kindergarten is based on this course of study.

While studying Japanese, children learn Hiragana-phonograms first. Therefore, children's books should be written in Hiragana, and these books should help children to learn their letters. However, from this research in fifty books, some of the books contain Katakana-phonograms and even Chinese characters without Hiragana support.

Also, one day, I observed three age classes at a private kindergarten to see the environment and activities used to help the children learn their letters. For example, the classroom walls of senior children classrooms were covered with charts, prayers, and so on, in Hiragana. The children were exposed to Hiragana in their class. And also, during the classes, the children learn and use their Japanese letters through activities. According to some teachers, most children in the senior age group can not only read Hiragana but also write it before they officially learn at the kindergarten. This happens because some have already learned Hiragana from their parents while others have learned by observation.

幼少期における文字習得とその環境 (藤本陽子)

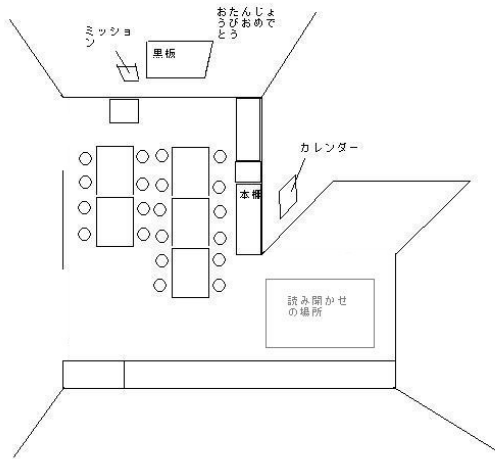
補遺1 幼年童話調査結果表

	書名	作者	訳者	出版社	発行年	対象年齢	カタカナ (ルビなし)	カタカナ (ルビあり)
1	あがりめ さがりめ	きしま せつこ		こぐま社	1975			
2	アンデルセン あかいくつ	かんざわ としこ		偕成社	1968		カーレン、キリスト(きょう)、ガラス、ダンス(ぐつ) ダンスパーティー、オルガン	
3	アンパンマンのクリスマス	やなせたかし		フレーベル館	1988			サンタクロース、クリスマスイブ、プレゼント、ジャム(おじさん)、アンパンマン、クリスマスプレゼント、トナカイ、カーン、カーン、ガシヤーン、アイスガム、パン(こうぼ)、メリークリスマス
4	うらしまたろう	時田 史郎再話		福音館書店	1972	4歳-小初		
5	おおいぬのふぐり	矢間 芳子		福音館書店	2009	年中		
6	おおきなかぶ	トルストイ再話	内田鶴彦子	福音館書店	1952	3歳-小初		
7	おさるのジョージ バレードにでる	M&H.A.レイ	渡辺 茂男	岩波書店	2000		ジョージ、バレード、ピエロ、バンド、ゾウ、ジャンクル、グシャツ、ドスン、バス、バルーン、ロープ、ヒーロー	
8	おじさんのかさ	佐野 洋子		講談社	1992		マーくん、ボンボロン、ピッチャンチキン、ビュルビュル	
9	おばあちゃん すこい!	中川 ひろたか		童心社	2002			
10	おぼけえほん ひとつめのくに	せな けいこ		童心社	1974	幼児 小低		
11	おふろやさん	西村 繁男		福音館書店	1977	4歳-大人まで		
12	かいじゅうたちのいるところ	モリス センダック	神宮 輝夫	富山房	1975		マックス	
13	かくれたかたち 1 2 3	辻 恵子		福音館書店	2008	年中		
14	かしこいビル	ウィリアム ニコルソン	松岡享子・吉田新一	ペンギン社	1982		メリー、ドーバー、アップル、スーザン、ティーポット、ブラシ、ビル、トランク	
15	きのうえはいくえん	庄野 英二		偕成社	1980			キリン、アコーディオン、ミルク、ブランコ、スープ、オムレツ、フルーツ、ボラダ、ゲーム、ダンス、スボーツ、シヤワー、バナナ、オレジン・ジュース
16	くまさん くまさん なにみてるの?	ビル マーチン	偕成社編集者	偕成社	1984			
17	ぐりとぐらのえんそく	ながかわ りえこ		福音館書店	1979	4歳-小低	マラソン、ボール、チョッキ、リーン	
18	げんきなマドレーヌ	ルドウィッヒ ベーメルマン	瀬田 貞二	福音館書店	1972		バリ、マドレーヌ、スキー、スケート、ミス・クラベル、コーンせんせい、ジートン、ジートン、ジージートン、ライト、ベッド、ハンドル、キャンデー、パン	
19	こおいむしのこそだて	吉谷 昭憲		福音館書店	2008	年中		
20	じぶんだけのいろ	レオ レオニ	谷川 俊太郎	好学社	1975		カメレオン、レモン、ヒース	
21	ずてきな三にんぐみ(愛蔵ミニ版)	トミー アンダラー	今江 祥智	偕成社	1990		マント、ラッパじゅう、ティファニーちゃん、ベッド	
22	せんたくばさみ	さとう ゆみか		福音館書店	2008	年中	パチン	
23	ぞうと かばちや	あべ 弘士		福音館書店	2008	年中	トマト、キロ	
24	だるまちゃんとだいきくちゃん	加吉里子		福音館書店	1991	3歳 小初	クッキー、ビスケット、ケーキ	
25	ちいさいおうち	バージュニア・リー・バートン	いしいももこ	岩波書店	1965			
26	つきのぼうや	イブ スパング オルセン	やまのうちきよこ	福音館書店	1975	3歳-小初		
27	とらつく とらつく とらつく	渡辺 茂男		福音館書店	1961	3歳-小低		
28	ながれぼしをひろいに	筒井 頼子		福音館書店	1987	3歳-小低		
29	ノントン でかでありがどう	キヨノ サチコ		偕成社	2006		タータン、ノントン	
30	ハートのほっぱ かたばみ	多田 多恵子		福音館書店	2008	年中	ハート、コンクリート、ロケット	
31	バーバババ たびにでる	アネット チゾン、タラス テイラー	やました はるお	講談社	1975			バーバババ、フランソワ、バーバママ、クロディーズ、ロンドン、インド、ニューヨーク、レタス、ハリコブター、バラシュート
32	バナナのはなし	伊沢 尚子		福音館書店	2009		バナナ	
33	パンダにあった	岩合 光昭		福音館書店	2008	年中	パンダ、シャク、シャク、バリバリ、ジュージュー、ズー、ズー、チュクチュク、チュク、ワンワン	
34	ピーターのいす	E ジャック キーツ	木島 始	偕成社	1969		ピーター、ビル、スージー、ピンク、ペンキ、ベッド、ウィリー、クッキー、ワニ、カーテン	
35	ひまわり	和歌山 静子		福音館書店	2001	2歳-4歳		
36	フェリーターミナルのいちにち	石橋 真樹子		福音館書店	2008	年中	フェリー、ゴゴッ、ターミナル、ビュイ ビュイ、エンジン、トレジャー、ヘッド、ゴゴゴゴ、ロビー、(ふとん)カー、クリーニング、キャリアカー、ホース、クレーン	
37	ぼく にげちやうよ	マーガレット・W・ブラウ	岩田 みみ	ほるぷ出版	1976	3歳から	クロッカス、ヨット、サーカス	
38	ぼくは おにいちゃん	かどのえいこ		童心社	1992	年中	ゼロ、ボール、キャッチボール、グー、パー、キー、テレビ、ハハ、チョッキ	
39	まあちゃんのまほう	たかどのほうこ		福音館書店	1992	3歳 小初	タネキ、カンカン、バナナ、ピケ、ワシワシ	
40	マフィンおばさんのぼんや	竹林 亜紀		福音館書店	1981	3歳 小初	アデルジャンジャン、マフィン(おばさん)、アノダツテ(人名)、チョコレート、ベッド、ジャム、プラム、コーヒー・クリーム、シナモン、アーモンド、バター、ミルク	
41	みずくさとみずべむら	カズコ・G・ストーン		福音館書店	2004	3歳 小初	ビュルルンさん、ミスター ミセス スイス、スケートちゃん、ゲンさん、ゴロウさん、タイコさん、コウチくん、ブカブカさん、タマちゃん、タカちゃん、他12名前、キャッチボール、ダンス、ストロー、センター、ボツリ、ボツン、ザアー、ザップーン、チョッキン、ヒューン、ジャンプ、ボトブ、ポッチャン、ボチャン、スイスイ	
42	めっきらもつきら どおん どん	長谷川 摂子		福音館書店	1985	3歳 小初	モモンガーッ、ビール	
43	もっと もっと おおきなおなべ	寮 美千子		フレーベル館	2008			シチュー、ミルク、プール
44	モモちゃんとこや	松谷みよこ		講談社	1996			モモ、プー、ハンカチ、ニヤーン、アイロン、シュッシュ、アウー、ニヤオー、チョッキン、ニヤオ、ニヤオ、ソリソリ
45	もりのひなまつり	こいでやすこ		福音館書店	1992		げんきでチュ、ビーヒヤラ、ボンボン、ビーヒヤラ、ヤーボンボン、ヤーボンボン、キッキキ	
46	やまをこえるてつどう	横溝 英一		福音館書店	2008	年中	ゴロ、ゴン、ブル、ブルン、トラクタ、ディーゼルエンジン、ガムブルブルーン、ゴーツ、エンジン、カーブ、トンネル、バック、ジグザグ、スイッチバック、ループせん、ホーム、メートル	
47	ゆうちやんのみきさーしゃ	村上 祐子		福音館書店	1968	3歳-小初		
48	よかつたね ネットくん	チャーリッ	八木田 宣子	偕成社	1969		ネット、パーティー、フロリダ、バラシュート、トラ、トンネル	
49	雨 あめ	ピーター スピアー		評論社	1984			
50	赤ずきん		生野 幸吉	岩波書店	1978		ハンバミ、カシワ、オオカミ、ワイン、ピロード、ドア、トントン、ベッド、カーテン	

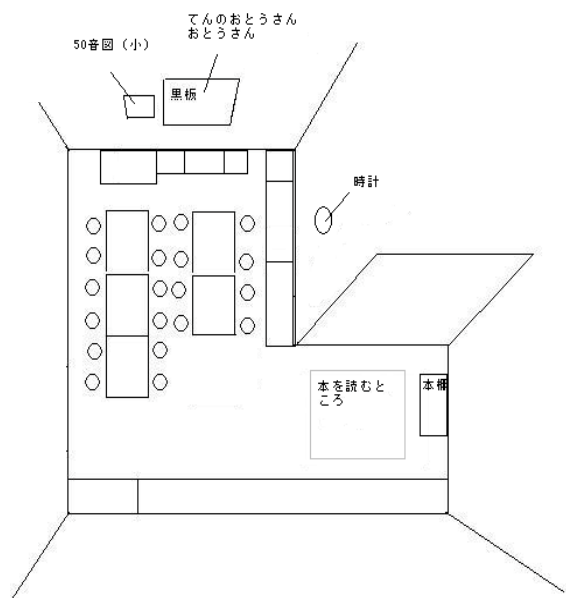
カタカナ(絵の中)	数字(ルビなし)	数字(ルビあり)	数字(絵の中)	漢字(ルビなし)	漢字(ルビあり)	漢字(絵の中)	備考
				絵、親子、向、方向、進、向、手、後、下、形、歩			漢字は親への注
	4つ、2ほん、3がつ、7じ、8じ、20ぶん、3つ、4がつ、1-73、20こ、7がつ						
セール、メイベルデパート、トロピカル			25%				
					三つ 二ほん ある日 大きな木 下口 二つ		文字は英社会そのまま看板、ポスター、貼り紙そのまま
	1、2 1、2、3						
					一(ほん)、十(じ)		
			10		一 二 三 四		
	12にん、2れつ、9じはん、2じかん、10かかん、2じから4じまで						
バス	100こ、2しゅうかん、2かげつ、5かい			科、小灌木、紫色、花		停留所、上小沢	漢字は、大人向けの注にある
	80(キロ)				歯、口、食道、胃、小腸、消化、大腸、直腸、肛門		
	3がい、4かい、25かい、35かい			二	能 日、月、木々、木		外来語もひらがな表記
						通行止 横断禁止 止まれ 徐行	
	5まい		10(円玉)				
	4 7(しゅうかん)、6(かげつ)						
カプト(運輸)						安全運転、禁煙、観光、物産、北海道、関係者以外立入禁止、安全箱、制限高(さ)、制限荷重、カプト運輸、お弁当	
	4、5ひやくにん						
	3にん、1ばん						
					五にんばやし、三にんかんじよ	御ひな道具一式、内裏雛	
	1000(ぶんの)30、12、40		3、7			下出、方面、吉松方面、宮崎方面、整理券、運賃箱	
ポリポリポリット ビスケット		100まんびき、50びき、1000にん					元の英文もそのままあり
				雨			文字はタイトルのみ
				十五、三、二	女の子、赤、日、森、大きな木、花		

補遺2 各教室の様子

1 年少組の部屋



2 年中組の部屋



3 年長組の部屋

